

## ⑦⑧Candi Lumbung・Candi Bubrah

人文社会科学部 2 年

### Candi Lumbung

#### 概要

ルンブン遺跡はプランバナナ寺院遺跡公園の中にあり、プランバナナ寺院よりも少し前、ボロブドゥールとほぼ同時期の古マタラム王国時代である 9 世紀に建てられた。本堂とそれを取り囲むように建てられた 16 のプルワラ小堂から構成されている。セウ寺院と構造が似ている。ヒンズー教のプランバナナ遺跡とは異なり、仏教寺院であった。



#### 名前の由来

発見された際にプルワラ小堂にお米が置いてあったことから、ジャワ語で「米蔵の寺院」を意味する lumbung と名付けられたと言われている。ガイドさんによると現在残っている全てのプルワラ小堂の前にお米が置いてあったようだ。その他にも寺院を最初に見つけた人が寺院の見た目や状況から名前をつけることがあり、発見時に苔がたくさんあった寺院にはジャワ語で緑を意味するイジョという名前が付けられている。



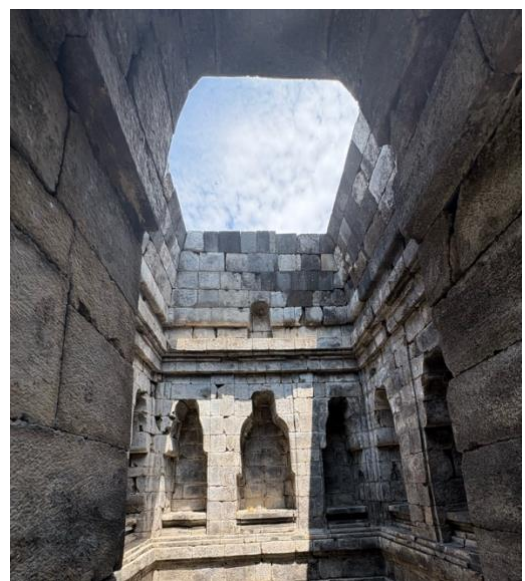
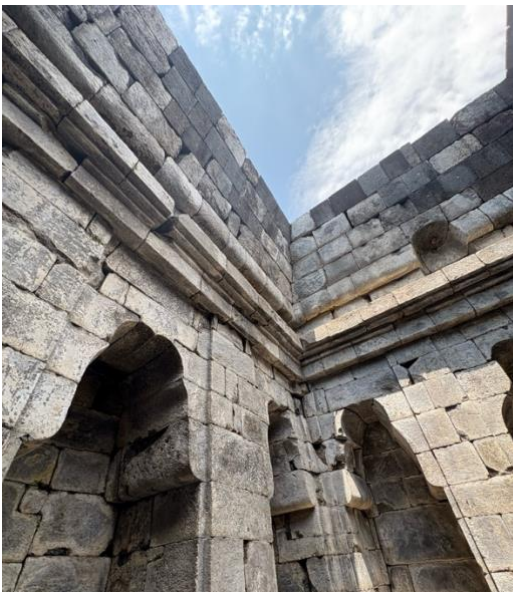
### アプサラ、アプサリ

遺跡の入口部分に側面の突起が特徴的な石が置いてあり、彫刻も施されていた。この石はパズルのように次の石と繋げることができるようだ。この石に描かれているのはアプサラというヒンズー教および仏教神話に登場する雲と水を司る女性の精霊であり、カンボジアのヒンズー教寺院であるアンコールワットでも同じ彫刻が見られる。

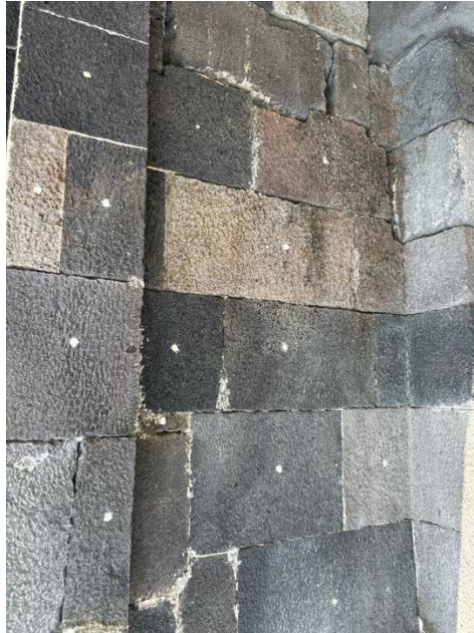


## 本堂について

本堂は東側を向いて立っており、入口の両側にクペーラ（毘沙門天）とハーリティ（鬼子母神）という神様の彫刻が、北、西、南側には仏像を納める壁龕があるが、現在仏像は一つも納められていない。本堂の屋根は破壊されているが、かつてはプルワラ小堂と同じくストゥーパと呼ばれる釈迦の遺骨や遺物を納める建造物だったと考えられている。内部には何も無く、ロウソクと線香が置いてあった。ガイドさんによると、中に仏像があったかもしれないが、発見された時には何も無かったため分からない、そしてロウソクと線香は現在この場所での祈りに使われているものであるそうだ。



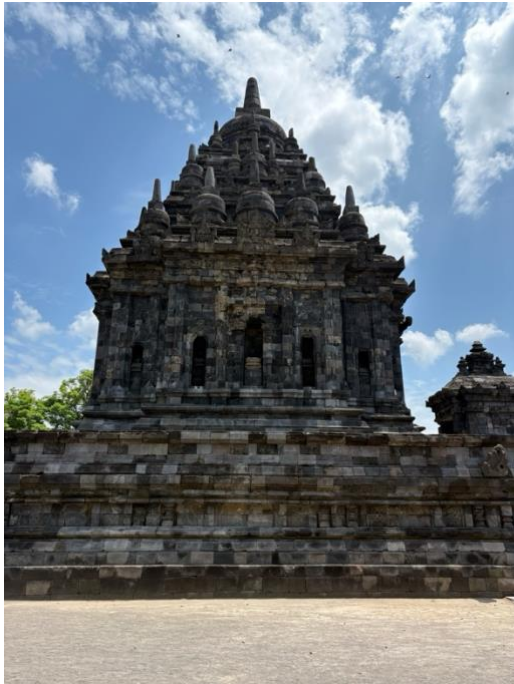
建物はムラピ火山を始めとする周囲の火山から運ばれた安山岩で作られており、再建のため新しい石が使われた箇所には白い点のような目印が着いている。



## Candi Bubrah

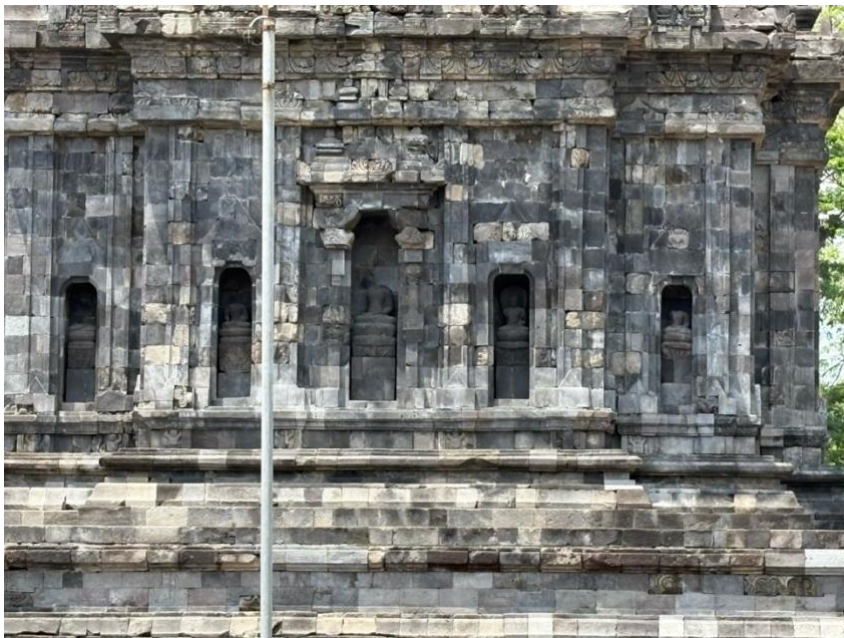
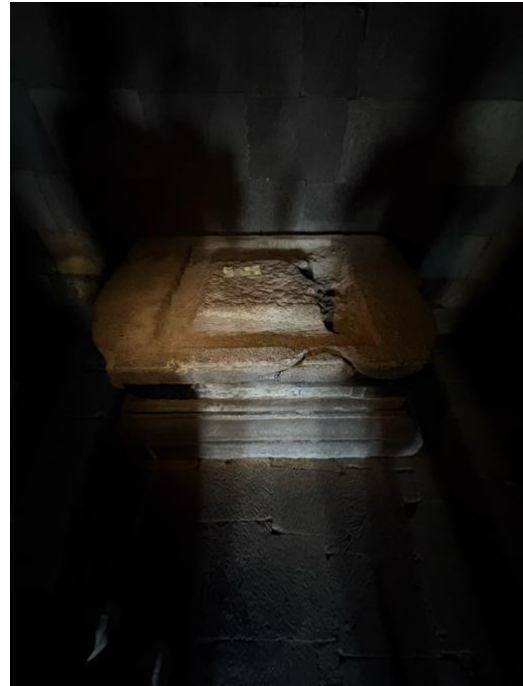
### 概要

ブブラ遺跡はプランバナナ寺院遺跡公園の中にあり、古マタラム王国時代の9世紀に建てられた仏教寺院である。この寺院は王国の都が移ると見捨てられ荒廃し、地震によって崩壊した。名前のブブラとはジャワ語で「壊れた」という意味である。大きく崩壊し石が散乱する状態だったが、ユネスコへの世界遺産登録により補助金が出され修復作業が始まり、2017年に現在の姿となった。



## 構造

ブブラ寺院も安山岩から出来ており、損傷した仏像がいくつか発見されている。内部への入口には魔除であるバロンの彫刻があり、内部には台座が設置されていた。外側の壁面には壁龕があるが、ルンブン寺院とは異なりこちらには仏像が納められている。屋根には小型のストゥーパが数多く並んでおり、仏教施設だということを物語っている。また、ルンブン寺院との違いとして建物が一基だけであること、損傷具合が激しかったからなのか細かな彫刻がないことも挙げられる。



### まとめ

ヒンズー教寺院のすぐ近くに仏教寺院があるという点において、ジャワのヒンズー教と仏

教が融合した独自の文化、宗教観を感じる事が出来た。また、同じ仏教寺院であるが2つの寺院の特徴が少し異なるのも面白い点だと思った。発見された時は石が散乱している状態だったのに、ここまで復元できたことは素晴らしいことだと思うが、一方でまだ再建に至っていない建物が多くあることも事実であるし、他の寺院に比べて見学している人がとても少なかった。世界遺産として保護され後世にその価値を伝えていく必要があるという点を踏まえると、修復作業に力を入れたり、情報発信やPRなど観光客にも興味を持ってもらう努力が必要だったりするのではないかと感じた。